Coach-Athlete Relationship Maintenance Questionnaire アスリート版のジュニアテニス選手への適用の試み

栗林千聡¹⁾・佐藤 寛²⁾

Pilot Evaluation of Psychometric Property of the Coach-Athlete Relationship Maintenance Questionnaire in Japanese Junior Tennis Players

Chisato Kuribayashi¹ and Hiroshi Sato²

Abstract

The purpose of this study was to develop pilot evaluation of psychometric property of the Coach-Athlete Relationship Maintenance Questionnaire (CARM-Q) in Japanese junior tennis players and to examine its reliability and validity. The athlete version of CARM-Q was administered to 240 Japanese junior tennis players with a mean age of 15.7 ± 1.3 years. Results of a confirmatory factor analysis replicated the factor structure found in the original version of the CARM-Q (Rhind and Jowett, 2012). Furthermore, it was suggested that the athlete version of CARM-Q had sufficient reliability and validity. The effects of the combination pattern of the coach-athlete dyad (athlete male/coach male, athlete male/coach female, athlete female/coach male, and athlete female/coach female) were tested via MANOVA using 7 subscales from the CARM-Q. Results revealed that the athlete male/coach female group was higher in Conflict management, Openness, and Motivational than the athlete male/coach male group. Additionally, the athlete female/coach male group revealed higher Motivational than the athlete male/coach male group. Future applications were also discussed regarding the CARM-Q as an assessment of the quality of the coach-athlete relationship in Japanese junior sport settings.

Key words: coach-athlete relationship maintenance strategy, coach-athlete, relationship, junior tennis player

1) 兵庫教育大学大学院学校教育研究科
〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
2) 関西大学社会学部
〒564-0073 大阪府吹田市山手町3-3-35
連絡先：栗林千聡
E-mail: chisato.k.529@gmail.com

1 Graduate School of Education, Hyogo University of Teacher Education
942-1 Shimokume Kato-city, Hyogo 673-1494
2 Faculty of Sociology, Kansai University
3-3-35 Yamatecho, Suita, Osaka 564-0073
Corresponding author: Chisato Kuribayashi

序 論

スポーツの文脈ではさまざまな人間関係（たとえば、コーチ、チームメイト、親など）が選手に心理的な影響を与えている。とりわけ、ジュニアスポーツの分野においては、コーチと選手の関係性が選手にとって特に重要な意味を持つことが指摘されてきた（Jowett and Cockerill, 2002）。たとえば、コーチとポジティブな関係にある子どもは、コーチとネガティブな関係にある子どもに比べてスポーツをより楽しんでいことが報告されている（Scanlan and Lewthwaite, 1986; Smoll et al., 1993）。また、コーチと選手の関係性がネガティブな状況にあると、選手のパフォーマンスが阻害されることや（Greenleaf et al, 2001; Vernaccia et al, 2000）、選手が競技をやめてしまうリスクが高まる（McPherson et al., 1980）ことが指摘されている。ジュニアテニス選手においてバーンアウトが問題視されているが、バーンアウトの原因の一つにはコーチとのネガティブな関係性が確認されている（Gould et al, 1996; 1997）。

コーチと選手の関係性に関する従来の研究は、1970年代後半からコーチのリーダーシップの態度を中心的なテーマとして行われてきた（Chelladurai, 1993; Smoll and Smith, 1989）。コーチのリーダーシップに関する研究では、どのようなコーチの行動が選手の自己効力感やパフォーマンスに影響を及ぼすかという点に主な焦点が当てられてきた。しかし、近年ではコーチと選手の関係性をより多角的にとらえようとする考え方が新たに広まりつつある。たとえば、Jowett and Ntoumanis (2004) はコーチと選手の関係性を「コーチと選手の感情、思考、行動が相互に影響し合って結びついている状態」と定義している。この定義に基づく、コーチと選手の関係性をとらえる際にコーチの行動面のみに焦点をあてるだけでは不十分であり、感情面や思考面についても視野に入れる必要があるといえる。

Jowett and Ntoumanis (2004) は上述の定義に基づき、コーチと選手の関係性の質を測定す

る尺度 “Coach-Athlete Relationship Questionnaire (CART-Q)” を作成している。CART-Qはさまざまな言語に翻訳され、英国、オランダ、中国、スイス、ハンガリー、ギリシャ、キプロス、クウェート、米国、ベルギー、スウェーデン、スペインといった数多くの国で研究に使用されている（Yang and Jowett, 2012）。CART-Qを用いた因子分析的研究によって、コーチとアスリートの関係性は3つの側面 “Closeness（親密性）” “Commitment（コミットメント）” “Complementarity（相補性）” から成り立っていることが明らかにされた（Jowett and Ntoumanis, 2004）。これらの知見は “3 Csモデル” として概念化され（Jowett, 2007）、コーチと選手の関係性に関する基本的な考え方として多くの研究において取り入れられている（Yang and Jowett, 2012）。

一方でJowett and Poczwardowski (2007) は、コーチと選手が良質な関係性を保つために必要な要因を明らかにすることの重要性を主張している。このような研究を行うことにより、コーチと選手の関係性を向上させるための方法を特定することが可能となる。この点について Rhind and Jowett (2010) は、一般的な二者関係（たとえば、親子関係、友人関係など）における関係性の研究から着想を得て、コーチと選手の関係性を良好な状態に保つために必要な心理的要因（以下「関係維持方略」と略す）を示す “COMPASSモデル” を作成している。このモデルにおける “COMPASS” とはコーチと選手の関係性の維持に有効な7つの方略（Conflict management：対立マネジメント、Openness：開示性、Motivational：動機づけ、Preventative：関係悪化の予防、Assurance：信頼に応える自信、Support：サポート、Social network：ソーシャルネットワーク）の頭文字からなっており、感情面、思考面、行動面の方略が含まれている（Fig. 1）。Rhind and Jowett (2012) は、このCOMPASSモデルをもとにしてコーチと選手の関係維持方略尺度（Coach-Athlete Relationship Maintenance Questionnaire: CARM-Q）を開発している（Table 1）。CARM-Q

で測定された関係維持方略は、CART-Qで測定されたコーチと選手の関係性の質を予測することが示されており（Rhind and Jowett, 2012）、心理学的実践への応用が期待される。CARM-Qはコーチと選手のそれぞれが回答可能であり、コーチと選手の関係維持方略を双方向から検討できることが特徴である。

そこで本研究では、CARM-Qのアスリート版を試験的に日本語に訳出し、ジュニアテニス選手を対象とした予備的な研究においてCARM-Qアスリート版の信頼性と妥当性を検討する。加えて、本研究ではコーチと選手の関係維持方略のコーチと選手の性別の組み合わせによる差についても検討する。先行研究において、青年期の選手の友人関係の質は男女で異なっていること（Weiss and Smith, 2002）や、選手の性別やコーチの性別の組み合わせによって好まれるリーダーシップが異なることが示されている（Riemer and Toon, 2001）など、全般的な対人関係へのアプローチには性差があることが指摘

されている。コーチと選手の関係維持方略についても対人関係において規定される心理的概念であることから、選手の性別やコーチの性別の組み合わせによって用いられる関係維持方略も異なる可能性があると考えられる。

方 法

調査対象者

全国11府県（大阪、京都、兵庫、奈良、石川、福井、滋賀、和歌山、岡山、愛媛、埼玉）の民間テニスクラブ及び学校の硬式テニス部に所属する、中高生のテニス選手287名を調査対象とした^{註1)}。調査対象者のうち、回答ミスや記入漏れが認められたものを除いた240名（男性147名、女性88名、性別未記入5名、平均年齢 15.71 ± 1.32 、有効回答率83.6%）の回答を分析対象者とした。

分析対象者の所属は民間テニスクラブ55名（22.9%）、学校の部活動170名（70.8%）、所属未記入15名（6.3%）であり^{註2)}、テニス経験年

Figure 1 COMPASSモデルにおける概要（Rhind and Jowett, 2010; 2012）

Table 1 CARM-Qの下位尺度について

下位尺度	内容
対立マネジメント	コーチと選手が意見が合わないときは葛藤を避けるように努める
開示性	プレーについてだけでなく、どんなことでも話す
動機づけ	コーチと選手が共に活動していくためのモチベーションがあることを示す
関係悪化の予防	コーチと選手がお互いにしてほしいと思っていることを確認し合う
信頼に応える自信	将来必要に応じてサポートをすることができることを表明する
サポート	実際にサポートを提供する
ソーシャルネットワーク	コーチと選手が競技外で共に過ごすこと

数は平均 5.35 ± 3.11 年であった。過去一年間の最もよい個人の戦績は、試合出場なし27名(11.3%)、地区大会予選出場64名(26.7%)、地区大会本選出場53名(22.1%)、地方大会出場59名(24.6%)、全国大会出場24名(10.0%)、全国大会ベスト4以上2名(0.8%)、世界大会出場3名(1.3%)、戦績未記入8名(3.3%)であった。対象者が主に指導を受けているコーチの性別は男性203名(84.6%)、女性29名(12.1%)、性別未記入8名(3.3%)であり、そのコーチからの指導年数は平均 2.14 ± 2.22 年であった。

調査材料

1. フェイスシート

性別、学年、年齢、主な所属(テニスクラブまたは学校の部活動)、テニス経験年数、過去一年間の戦績、主に指導を受けているコーチの性別、主に指導を受けているコーチからの指導年数について尋ねた。

2. Coach-Athlete Relationship Maintenance Questionnaireアスリート版

CARM-Qアスリート版^{註3)}は、Rhind and Jowett (2012)によって作成されたCARM-Qを和訳して作成した。CARM-Qの和訳は、中高生にも理解できるような平易な表現を用いるよう留意して、健康心理学を専門とする大学教員1名と心理学を専攻する学部学生1名との合議によって行った。その後、研究目的について熟知しない外部のバイリンガルに和訳した質問紙のバックトランスレーションを依頼し、作成されたバックトランスレーション版をCARM-Qの原版著者(Daniel Rhind)にメールで送信して確認を得た。

CARM-Qは7因子(対立マネジメント、開示性、動機づけ、関係悪化の予防、信頼に応える自信、サポート、ソーシャルネットワーク)28項目からなる自己評価式の質問紙である。主に指導を受けているコーチについて、項目に示された内容をどのように感じているか7件法(「1. まったくそう思わない」－「7. 非常にそう思う」)で対象者に評定を求めた。

3. 日本体育協会競技動機調査(Taikyo Sport Motivation Inventory: TSMI)

CARM-Qアスリート版の妥当性を検討するために、スポーツ選手の心理的適性を評価するために広く使われているTSMI(松田ほか, 1981)を使用した。TSMIは17因子146項目から構成される自己評定式の質問紙である。本研究では、「コーチ受容」「コーチ不適応」の2因子16項目を抜粋して用いた。回答は4件法(「1. まったくあてはまらない」－「4. よくあてはまる」)で評定を求めた。TSMIは十分な信頼性と妥当性が確認されている。

調査手順

2013年7月－10月に調査を実施した。対象となった中学と高校のテニス部の監督、民間テニスクラブの責任者に研究趣旨を説明した後、調査協力に了解が得られた施設には質問紙と依頼書を郵送か手渡しで配布した。倫理的な観点から、対象者には研究趣旨、データの処理方法、個人情報守秘、調査協力の任意性について書面で説明を行い、同意した者のみ質問紙に回答してもらった。回答された質問紙は他者の目に触れないよう、返信用封筒に厳封の上で郵送か手渡しにて回収した。

分析方法

1. Rhind and Jowett (2012)によって作成されたCARM-Q原版の因子構造が本研究の対象者においても当てはまるか検討するために、確認的因子分析を行った。
2. 内的整合性を検討するために、因子ごとにCronbachの α 係数を算出した。
3. 構成概念妥当性を検討するために、CARM-Qアスリート版の下位尺度得点とTSMIのコーチ受容得点とコーチ不適応得点との相関係数を算出した。
4. コーチと選手の性別の組み合わせによってCARM-Qアスリート版の下位尺度得点に差があるかどうかを検討するために、コーチと選手の性別の組み合わせ(選手男×コーチ男、選手男×コーチ女、選手女×コーチ

男、選手女×コーチ女)を独立変数とし、CARM-Qアスリート版の各下位尺度得点を従属変数とする多変量分散分析を行った。データ全体の群間の差を表すWilksのラムダに有意差が認められた場合には、CARM-Qの各下位尺度について、コーチと選手の組み合わせを要因とする一要因の分散分析を行った。

なお、フェイスシートの情報を必要とする分析(コーチと選手の性別の組み合わせによる検討)は、コーチか選手のいずれかの性別が未記入であった対象者を欠測値として削除し、フェイスシートの情報を必要としない分析(確認的因子分析、信頼性の検討、妥当性の検討)については、可能な限りすべてのデータを分析に用いた。

結 果

1. 確認的因子分析

Rhind and Jowett (2012)によって作成されたCARM-Q原版の因子構造が本研究の対象者においても当てはまるか検討するために、確認的因子分析を行った。Amos 22を用い、パラメータの推定には最尤推定法を使用した。修正指数に基づき、0.25以上の改善度が示された場合には誤差間に共変を設けた。分析の結果、適合度指標はGFI=.828, CFI=.906, RMSEA=.074であった。GFI, CFIにおいては適合のよさの目安は.90とされており、RMSEAは.10以下であれば許容範囲とされている(豊田, 2008)。ここで、GFIは.90に満たなかったものの、CFI, RMSEAは十分な値を示しており、総合的に判断して適合度は許容できる範囲であるといえる。

Table 2に各因子に含まれる項目の因子負荷量を示す。また、CARM-Qアスリート版の因子間相関をTable 3に示す。これらの結果から、本研究の対象者においてもCARM-Qアスリート版の因子構造はRhind and Jowett (2012)によって作成されたCARM-Q原版と同様であった。

2. 信頼性の検討

内的整合性を検討するため、因子ごとにCronbachの α 係数を算出した。その結果、 α 係数は.77-.86の範囲であり、いずれも比較的高い値が得られた。

3. 妥当性の検討

本研究では構成概念妥当性の検討のため、TSMIの「コーチ受容」と「対コーチ不適応」の下位尺度を使用した。「コーチ受容」はコーチに対する信頼感やコーチの指示への従順さに関する尺度であり、「対コーチ不適応」はコーチとの人間関係がうまくいっているかどうかに関する尺度である。よって、CARM-Qアスリート版と「コーチ受容」の間には正の相関がみられ、CARM-Qアスリート版と「対コーチ不適応」の間には負の相関がみられるという仮説を設定した。

まず、CARM-Qアスリート版の下位尺度得点とTSMIのコーチ受容得点との相関係数は $r=.37-.57$ であり、おおむね中程度の正の相関があることが示された。また、CARM-Qアスリート版の下位尺度得点と対コーチ不適応得点との相関係数は $r=-.17-.33$ であり弱い負の相関があることが示された(Table 4)。以上の結果はすべて統計的に有意であり(いずれも $p<.01$)、CARM-Qアスリート版の構成概念妥当性に関する仮説が支持されたといえる。

4. コーチと選手の性別の組み合わせの差

コーチと選手の性別の組み合わせによってCARM-Qアスリート版の下位尺度得点に差があるかどうかを検討するために、コーチと選手の性別の組み合わせ(選手男×コーチ男, 選手男×コーチ女, 選手女×コーチ男, 選手女×コーチ女)を独立変数とし、CARM-Qアスリート版の各下位尺度得点を従属変数とする多変量分散分析を行った(Table 5)。なお、この分析については、選手本人かコーチのいずれかの性別が未記入であった10名を分析対象から除外した。その結果、データ全体の群間の差を表すWilksのラムダは有意であった($\Lambda(21, 632) = .82$,

Table 2 CARM-Qアスリート版の確認的因子分析の結果

(有効サンプル数 240)		因子負荷量
項目		
I. 対立マネジメント ($\alpha=.79$)		
15. コーチと意見が合わなくても、相手の主張を理解するよう努めている。		.76
27. コーチと意見が合わないときには、コーチと協力して解決している。		.67
8. コーチと意見が合わなくても、忍耐強く対応している。		.67
22. コーチと意見が合わなくても、コーチの意見をよく聞くよう努めている。		.67
1. コーチと意見が合わなくても、怒りを表さないように努めている。		.54
II. 開示性 ($\alpha=.81$)		
23. 自分の気持ちを、コーチに対して素直に出すほうだ。		.81
9. コーチに対して、前向きな意見を言うようにしている。		.77
2. コーチと目標を決めるときには、自分の意見も言うようにしている。		.77
16. 必要なときには、コーチをほめている。		.57
III. 動機づけ ($\alpha=.86$)		
28. 自分の競技への情熱を、コーチに示している。		.87
17. 目標を達成する決意があることを、コーチに示している。		.79
3. コーチに対して、自分のやる気を示している。		.72
10. 選手としての自分の能力をコーチに示している。		.72
24. 目標を達成するために、懸命に努力している。		.61
IV. 関係悪化の予防 ($\alpha=.79$)		
18. 自分がしてほしいことをコーチがしてくれたときや、反対にしてくれなかったときには、コーチにそのことを伝えている。		.74
4. コーチにしてほしいことを、コーチ本人に伝えている。		.72
11. 自分たちの今の状況について、話し合いをしている。		.69
25. コーチとの人間関係について、コーチと定期的に話し合いたいと思う。		.66
V. 信頼に応える自信 ($\alpha=.85$)		
19. 自分にはどんなことでも話してくれてよいことをコーチに示している。		.84
5. うまく行っていないときでも、自分を信頼してくれて大丈夫だとコーチに示している。		.77
12. 自分にまかせてくれて大丈夫だとコーチに示している。		.77
VI. サポート ($\alpha=.78$)		
20. コーチがうまくいっていないときには、助けている。		.83
6. コーチが困っていたら助けている。		.79
13. コーチの個人的な事情を気にかけるようにしている。		.59
VII. ソーシャルネットワーク ($\alpha=.77$)		
14. コーチとうまく付き合っている。		.70
26. コーチと自分の共通の友人や人間関係のことを、話に出すことがある。		.69
7. コーチと自分の共通の仲のいい知り合いと一緒に過ごすのが好きだ。		.67
21. トレーニング以外の時間にも、自分のコーチと時間を過ごすことがある。		.61

Table 3 CARM-Qアスリート版の因子間相関

	対立 マネジメント	開示性	動機づけ	予防	自信	サポート	ソーシャル ネットワーク
対立マネジメント	—						
開示性	.71**	—					
動機づけ	.75**	.77**	—				
関係悪化の予防	.67**	.79**	.73**	—			
信頼に応える自信	.65**	.73**	.72**	.84**	—		
サポート	.58**	.67**	.62**	.73**	.72**	—	
ソーシャルネットワーク	.58**	.69**	.64**	.79**	.76**	.67**	—

** $p < .01$

$p<.01$). そこでCARM-Qの各下位尺度について、コーチと選手の性別の組み合わせを要因とする一要因の分散分析を行ったところ、対立マネジメント、開示性、動機づけにおいて有意なコーチと選手の性別の組み合わせの差がみられた（対立マネジメント： $F(3, 226) = 2.62, p<.10$, 開示性： $F(3, 226) = 4.65, p<.01$, 動機づけ： $F(3, 226) = 5.36, p<.01$). Tukey法を用いた多重比較を行ったところ、「開示性」においては、選手男×コーチ女の性別の組み合わせは選

手男×コーチ男の性別の組み合わせより有意に得点が高いことが示された ($p<.05$). 同様に「動機づけ」においては、選手男×コーチ女と選手女×コーチ男の性別の組み合わせが選手男×コーチ男の性別の組み合わせより得点が高い傾向が認められた ($p<.10$).

Table 4 CARM-Q アスリート版とTSMIの相関係数

下位尺度	コーチ受容	コーチ不適応
対立マネジメント	.57**	-.27**
開示性	.41**	-.27**
動機づけ	.55**	-.33**
関係悪化の予防	.47**	-.28**
信頼に応える自信	.50**	-.28**
サポート	.37**	-.17**
ソーシャルネットワーク	.45**	-.32**

** $p<.01$

Table 5 コーチと選手の性別組み合わせ別のCARM-Qアスリート版の下位尺度ごとの平均値と分散分析の結果

サンプル数	選手男, コーチ女 (128名)	選手男, コーチ女 (16名)	選手女, コーチ男 (73名)	選手女, コーチ女 (13名)	組み合わせの差 F
対立マネジメント	22.29 (5.71)	26.13 (4.99)	23.56 (6.10)	24.23 (5.36)	2.62 [†] 選手男×コーチ男< 選手男×コーチ女
開示性	15.89 (5.15)	20.00 (4.86)	17.59 (5.93)	19.38 (4.23)	4.65* 選手男×コーチ男< 選手男×コーチ女
動機づけ	23.00 (5.82)	28.00 (4.68)	25.52 (6.36)	25.85 (6.74)	5.36* 選手男×コーチ男< 選手男×コーチ女, 選手女×コーチ男
関係悪化の予防	15.18 (5.22)	18.44 (5.05)	16.00 (5.73)	17.62 (5.64)	2.34 <i>n.s.</i>
信頼に応える自信	11.46 (4.41)	12.19 (4.31)	11.71 (4.68)	12.15 (4.79)	0.20 <i>n.s.</i>
サポート	10.61 (4.14)	11.25 (4.39)	11.66 (4.59)	12.62 (4.33)	1.50 <i>n.s.</i>
ソーシャルネットワーク	15.02 (5.42)	16.50 (5.44)	16.22 (5.45)	18.15 (6.08)	1.87 <i>n.s.</i>

カッコ内は標準偏差. [†] $p<.10$, * $p<.05$.

考 察

本研究の目的は、ジュニアテニス選手を対象にCARM-Qを日本語に訳出し、その信頼性と妥当性を試験的に検討すること、コーチと選手の性別の組み合わせによる差を検討することであった。本研究の結果から、1. CARM-Qアスリート版は原版と同様の7因子構造が認められる、2. CARM-Qアスリート版には少なくともジュニアテニス選手に適応した限りでは十分な信頼性と妥当性がある、3. CARM-Qアスリート版で測定されているコーチと選手の関係維持方略には、コーチと選手の性別の組み合わせによる違いは認められる、といった点が明らかになった。

本研究ではRhind and Jowett (2012) のCARM-Q原版に基づいた因子構造が本研究の対象者においても適切であるか、確認的因子分析によって検討を行った。その結果、原版と同一の因子構造についてデータの当てはまりが良好であることが示されている。このことから、CARM-Qアスリート版で測定されているコーチと選手の関係維持方略は原版が作成された英国と日本との間に文化的差異を超えた普遍性が認められる可能性があるといえる。

CARM-Qアスリート版の信頼性について、 α 係数は.77-.86の範囲であった。これはCARM-Q原版の α 係数 (.71-.99) と比較するとやや控えめな値ではあるが (Rhind and Jowett, 2012)、適切な内的整合性を表す値であるといえる。また、CARM-Qアスリート版の妥当性についても、TSMIの「コーチ受容」尺度と「対コーチ不適応」尺度との相関において適切な構成概念妥当性を示す結果が得られた。なお、CARM-Q原版では妥当性の検討にコーチと選手の関係性の質を測定するCART-Qを用いており、わが国においても原版と同様の手続きによって妥当性を検討する研究が行われることが望ましい。

CARM-Qアスリート版の各下位尺度得点については、コーチと選手の性別の組み合わせによる比較において、一部の下位尺度に差が認められた。男子選手では、指導を受けるコーチが男

性の場合よりも女性の場合の方が、「開示性」「動機づけ」「対立マネジメント」といった関係維持方略をよく用いていることが明らかとなった。

男子選手は女性コーチの場合にコーチと共に活動していく動機づけがあることをコーチにより多く示していることが示唆された。従来、スポーツ心理学で扱われてきた動機づけの概念は、競技者が特定の目標を指向している行動の機能や意味を重視した達成目標理論や自己決定理論に基づく研究を基礎にしていることが多い (藤田・松永, 2009)。これまで、親和動機づけなどの社会的な動機づけについてはスポーツ分野においてあまり取り上げられてこなかった (伊藤ら, 2008)。今後はスポーツ領域においても、社会的な動機づけについて検討していく必要があると考えられる。

これらの結果から、男子選手への指導を行う際に、少なくともコーチとの関係性維持という観点では男性コーチよりも女性コーチの方が有利であることが示唆される。Riemer and Toon (2001) は、コーチのリーダーシップの在り方の好ましさが選手の性別やコーチの性別の組み合わせによって異なることを示しているものの、女性コーチに指導を受けている男子選手の対象者の人数が少なかったことを限界として述べている。先行研究と本研究の結果から、男子選手を指導する女性コーチは一般的に少ない可能性が考えられる。この点に関しては、国内外を通してほとんど研究がされておらず、さらに研究を積み重ねる必要がある。

本研究の結果、いくつかの利点ももたらされることが考えられる。たとえば、コーチと選手の関係維持方略がスポーツ心理学におけるさまざまな概念 (たとえば、パフォーマンス、競技不安、バーンアウト、競技からのドロップアウトなど) とどのように関連しているかといった検討にCARM-Qを取り入れることが可能になり、コーチと選手の関係性を良好な状態に維持される心理学的背景に関する基礎研究の発展が促されることが期待される。具体的にどのような関係維持方略が効果的であるのか特定することが

できれば、心理学的な介入法を考案することも可能になると考えられる。加えて、こうした心理学的な介入法の効果測定を実施する際にも、CARM-Qアスリート版を用いることで定量的評価が可能になる。コーチと選手の知覚には相互にずれが認められることも報告されていることから (Curtis, et al., 1978), 定量的に測定された関係維持方略の変化をコーチと選手が相互に参照することによって、介入効果の促進に寄与できる可能性も示唆される。

最後に本研究の限界と今後の課題について述べる。第1に、本研究では対象者がジュニアテニス選手に限定されている。原版のCARM-Qはジュニアテニス選手に特化した尺度として開発されたものではなく、さまざまな競技種目を含めたスポーツ選手全般を対象として開発されたものである。よって、対象となるスポーツの範囲を広げてデータを積み重ねていく必要がある。

第2に、本研究ではCARM-Qをアスリート版に限定して作成している。コーチと選手の関係維持方略をより多面的に検討するためにはコーチ版についても日本語版を作成し、日本におけるコーチ版とアスリート版のCARM-Qを対比的に検討する必要がある。

第3に、本研究で作成されたCARM-Qアスリート版はコーチと選手の関係維持方略を自己評価する質問紙法に基づいている。しかしながら、コーチと選手の関係維持方略のアセスメントにおいて、得られたデータがコーチと選手の間で交わされている実際の相互作用と一致しているかどうかという点は重要である。たとえば観察法や面接法といった質問紙法以外のアセスメント技法を新たに開発し、CARM-Qアスリート版と照らし合わせることで、コーチと選手の関係維持方略を測定する最適なアセスメント法の組み合わせが明らかにされることが望ましい。

注

注1) 先行研究では、テニス、トライアスロン、柔道、ラグビー、ホッケーなどの選手が対象者に含まれている (Rhind and Jowett, 2012)。また、テニス

は個人スポーツとして扱われることが多く、コーチから個人としてフィードバックを受ける機会は集団スポーツと比較して多くなると考えられる。よって、本研究の対象者としてテニス選手を選定した。

注2) 「CARM-Qアスリート版」とは、選手側から見たコーチとの関係維持方略を測定する尺度である。CARM-Q原版では、コーチと選手の両者が同一の尺度を使用できる。しかし、日本語の言語体系において同様の形式を使用すると、回答者が誰について尋ねられているのが理解しにくく、回答の際に混乱を招いてしまう可能性が考えられた。そこで、日本語の言語体系に合わせる形で「CARM-Qアスリート版」を作成し、バックトランスレーションしたものをCARM-Qの原版著者 (Daniel Rhind) に送り、項目の趣旨が原版と等価であることについて確認を得た。

注3) 民間テニスクラブと学校硬式テニス部でCARM-Qアスリート版の下位尺度得点に差があるかを検討するために多変量分散分析を行った。その結果、データ全体の群間の差を表すWilksのラムダは有意ではなかった ($\Lambda(7, 217) = .95, n. s.$)。

文 献

- Chelladurai, P. (1993) Leadership in sport. In: Singer, R. N., Murphey, M., and Tennant, L. K. (Eds.) Handbook of research on sport psychology. Macmillan: New York, pp.647-671.
- Curtis, B., Smith, R. E., and Smoll, F. L. (1978) Coaching behaviors in little league baseball. In: Smoll, F. L., and Smith, R. E. (Eds.) Psychological perspectives in youth sports. Hemisphere: Washington DC, pp.173-201.
- 藤田 勉・松永郁男 (2009) 運動部活動参加者の心理的欲求に影響するコーチ及びチームメイトの活動。鹿児島大学教育学部教育学実践研究紀要, 19: 71-80.
- Gould, D., Tuffy, S., Udry, E., and Loehr, J. (1996). Burnout in competitive junior tennis players: II. Qualitative analysis. The Sport Psychologist, 4: 340-366.
- Gould, D., Tuffy, S., Udry, E., and Loehr, J. (1997). Burnout in competitive junior tennis players: III. Individual differences in the burnout experience. The Sport Psychologist, 3: 257-276.
- Greenleaf, C., Gould, D., and Dieffenbach, K. (2001) Factors influencing Olympic performance: Interview with Atlanta and Nagano U. S. Olympians. Journal of Applied Sport Psychology, 13: 154-184.
- 伊藤豊彦・磯貝浩久・西田 保・佐々木万丈・杉山佳生・渋谷崇行 (2008) 体育・スポーツにおける動機づけ雰囲気研究の現状と展望。島根大学教育学部紀要 (教育科学), 42: 13-20.
- Jowett, S. (2007). Interdependence analysis and the 3 + 1Cs in the coach-athlete relationship. In: Jowett, S. and Lavallee, D. (Eds.), Social psychology in sport, Human

- Kinetics: Champaign, pp.15-27.
- Jowett, S. and Cockerill, I. M. (2002) Incompatibility in the coach-athlete relationship. In: Cockerill, I. M. (Ed.) *Solutions in sport psychology*. Thompson Learning: London, pp.16-31.
- Jowett, S. and Ntoumanis, N. (2004) The Coach-Athlete Relationship Questionnaire (CART-Q): Development and initial validation. *Scandinavian Journal Medicine and Science in Sports*, 14: 245-257.
- Jowett, S., and Poczwardowski, A. (2007). Understanding the coach-athlete relationship. In: Jowett, S. and Lavallee, D. (Eds.) *Social psychology in sport*, Human Kinetics: Champaign, pp.3-14.
- 松田岩男・猪俣公宏・落合 優・加賀秀夫・下山 剛・杉原 隆・藤田 厚・伊藤静夫 (1981) スポーツ選手の心理的適性に関する研究—第3報—. 昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告, 4: 86-95.
- McPherson, B., Marteniuk, R., Tihanyi, J., and Clark, W. (1980) The social system of age group swimmers: The perception of swimmers, parents and coaches. *Canadian Journal of Applied Sport Sciences*, 4: 142-145.
- 小田切果奈・佐々木万丈・西田順一 (2013) 体育教師への心理的距離が体育の学習意欲に及ぼす影響: 中学生と教師の性別の組み合わせによる検討. *日本スポーツ心理学会第40回大会研究発表抄録集*, 44-45.
- Rhind, D. J. A., and Jowett, S. (2010) Relationship maintenance strategies in the coach-athlete relationship: The development of the COMPASS model. *Journal of Applied Sport Psychology*, 22: 106-121.
- Rhind, D. J. A., and Jowett, S. (2012) Development of the coach-athlete relationship maintenance questionnaire. *International Journal of Sport Science and Coaching*, 7: 121-138.
- Riemer, H. A., and Toon, K. (2001) Leadership and satisfaction in tennis: Examination of congruence, gender, and ability. *Research Quarterly for Exercise and Sport*, 72: 243-256.
- Scanlan, T. K., and Lewthwaite, R. (1986) Social psychological aspects of competition for male youth sport participants: IV. Predictors of enjoyment. *Journal of Sport Psychology*, 8: 25-35.
- Smoll, F. L., Smith, R. E., Barnett, N. P., and Everett, J. J. (1993) Enhancement of children's self-esteem through social support training for youth sport coaches. *Journal of Applied Psychology*, 78: 602-610.
- Smoll, F. L. and Smith, R. E. (1989) Leadership behaviors in sport: A theoretical model and research paradigm. *Journal of Applied Social Psychology*, 19: 1522-1551.
- 豊田秀樹編 (2008) 共分散構造分析 Amos編 構造方程式モデリング (第2版). 東京図書株式会社: 東京.
- Vernacchia, R., McGuire, R., Reardon, J., and Templin, J. (2000) Psychosocial characteristics of Olympic track and field athletes. *International Journal of Sport Psychology*, 31: 5-23.
- Weiss, M. R., and Smith, A. L. (2002) Friendship quality in youth sport: relationship to age, gender, and motivation variables. *Journal of Sport and Exercise Psychology*, 24: 420-437.
- Yang, S. X., and Jowett, S. (2012) Psychometric properties of the Coach-Athlete Relationship Questionnaire (CART-Q) in seven countries. *Psychology of Sport Exercise*, 13: 36-43.

(2014.9.22 受稿, 2015.3.25 受理)